



たび 旅

2022.6.5<日>
→8.28<日>

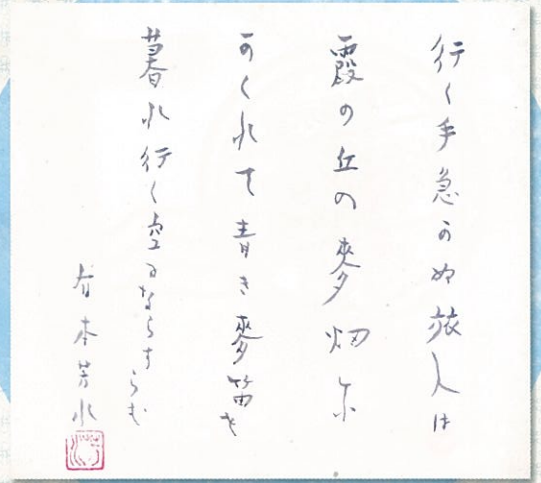
吉備路文学館
KIBIJI LITERARY MUSEUM

旅についてあれこれ考える時間は心はずみずみ。そのようなとき、吉備路の文学者の作品にふれてみてはいかがでしょう。吉備路の文学者たちの旅に対する独自の考え方は、私たちに旅の発見や憧憬をもたらしてくれます。文学の世界なら、いつでもどこでも旅することができるのもよいところです。

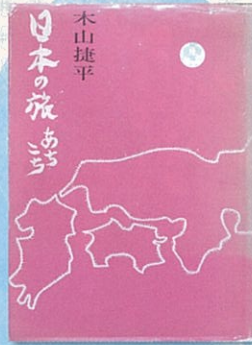
『水蔭行脚全集』の著者江見水蔭は、若い頃から晩年まで旅をした小説家です。意外と旅行に行っている**正宗白鳥**。哀愁と感傷を取り入れた旅の詩といえば**有本芳水**。『阿房列車』シリーズの**内田百閒**。飄々洒脱な紀行文『日本の旅あちこち』を書いた**木山捷平**。誰かの代わりに旅をする主人公を描いた小説『旅屋おかえり』の作者**原田マハ**は「フーテンのマハ」を自称するほどの大の旅好き。そして随筆集『街角の煙草屋までの旅』を書いた**吉行淳之介**。とっての旅は、遠くへ行くことばかりでもないようで……。

また、岡山県を訪問した**夏目漱石**、**若山牧水**、**与謝野寛・晶子**といった文学者たちの岡山旅についてもご紹介します。

吉備路の文学者たちの旅は探検からご近所までいろいろです。あれも旅なら、これも旅、と広い心で受けとめていただければ、きっと気の合う旅が見つかるかと存じます。



詩 色紙 有本芳水筆



図書『日本の旅あちこち』
木山捷平著
(永田書房/昭和42年)



図書『街角の煙草屋までの旅』
吉行淳之介著
(講談社/昭和54年)



図書『水蔭行脚全集』全8巻 江見水蔭 (江水社/昭和7年~10年)

1巻「佐渡へ佐渡へ」 2巻「信濃よ越後よ」 3巻「九州と北海道」 4巻「十縣飛々行脚」
5巻「樂行脚苦行脚」 6巻「北國中國東國」 7巻「瀬戸内と四國」 8巻「追悼號」



- ・ 日にち
- ・ 場所
- ・ 持ち物

